



皆さんの悩み、お聞きします

ケアラーの窓から

Vol.19

研修で学んだこと 介護は「お手伝い」 自立をサポートする



Profile

機能訓練型デイサービス すまいる（朝日 4）

介護職員 **佐々木 智奈美 さん**

岩見沢市出身。約7年間にわたり同施設の職員として従事。身体づくりやリハビリなどの観点から、利用者にさまざまな運動プログラムを提供している。町内で子育てを行う二児の母親でもある。

介護の仕事を通じて
 当施設は運動やトレーニングを中心に行う「機能訓練型」のデイサービスとして運営しています。利用者の皆さんは身体機能の向上を目的に、休憩を入れながら身体を動かしています。エアロバイクやロープを使い、中には90歳以上の方も活動されています。多くの皆さんの元気な姿を見ると大変嬉しく、私も楽しんでサポートしています。

介護の魅力知ってほしい
 これまで「してあげる」イメージのあった介護でしたが、研修を通じて自立をサポートする「お手伝い」こそが本質であると感じ、今の仕事に対する意識に活かされています。
 依然として介護にマイナスのイメージを持つ方もいるかと思いますが、待遇や職場環境は以前より改善されていることも講義で知りました。研修には主婦や自衛官など、さまざまな方が興味を持って参加していました。介護のスキル持つ方や業界で働く方が今後もっと増えたらと思います。



20～50代の町民9人が受講した昨年度の介護職員初任者研修の修了式（北海道介護福祉学校）。今年も実施予定です。

※今月のコラムは、栗山町介護人材確保プロジェクトチームの協力により掲載しています。

栗山学び隊 No.38

北海道介護福祉学校 × 特別養護老人ホーム「くりのさと」

施設実習、介護の現場で新たに学ぶ

くりのさとでは、3人の学生が現場での実習を行っています。取材を行ったこの日は職員と学生の打ち合わせ（カンファレンス）で、利用者の対応報告や介護計画の立案・実施に向け、指導者から助言を受けました。

栗山町出身の上村さん・松田さんは「利用者との会話から情報を集め、課題を明確にできた」「夜間勤務の流れを知り、緊急性に

じた対応を学んだ」など話し、池田さんも「利用者の安全確保や相手の気持ちに寄り添うことの大切さを感じた」と確かな手応えを感じていました。

課長の増田さんは同校10期の卒業生。「皆さんの学ぶ姿は立派で、成長を感じています」と話し、「私にとっても学生生活は貴重な経験でした。悔いなく過ごしてほしい」とエールを送りました。

地域で輝く介護福祉学校と栗山高校に通う皆さんの様子をお届けします



前方、左から松田朋子さん、上村美希さん、池田真音人さん
 後方、左からスタッフの渡辺さん、増田さん



コロナ禍明け、学校祭開催へ準備中

きたかみ まい
北上 麻衣さん（栗山高等学校3年）

7月7、8日の学校祭に向け生徒会長として奮闘する北上さん。「今年の学校祭のスローガンは『Dream Again』。コロナ禍前の輝きを取り戻したい思いから生徒会で考えました」といいます。主に司会進行を担当するとのことですが「司会は慣れています

します。それでも学校祭について質問するとキッチンカー、ビンゴ大会、有志発表など、目玉企画を紹介いただきました。「特にビンゴ大会は各種景品を用意しています。ぜひお越しください！」と学校祭への思いがひしひしと伝わります。

行事まで残りあとわずか。「人が集まるか不安ですが、広報活動をもっと頑張りたい」と話していました。



生徒会執行部の皆さん。机には作業中の物品が多く並ぶ

インスタグラム
 発信中です！



@KURIYAMA_HIGH_SCHOOL



※今年の学校祭の一般公開はありません。来場者は在校生、学校関係者・卒業生、保護者、小中学生に限定して行われます。